

### (1) フレームワークプランの背景と目的

---

#### 1) フレームワークプランの背景

熊本大学は、本学の理念・目標に基づき、長期的視点に立った計画的な整備を進めていくためにキャンパスマスタープランを策定している。このキャンパスマスタープランは主要な5つのキャンパス毎に計画としてまとめ、これを基に、施設整備はもちろん、施設の有効活用、維持管理や環境保全等の施設マネジメントを推進し、教育・研究・医療施設や学生アメニティ施設の充実を図っている。

キャンパスマスタープランの次期更新に向けて、①時代のトレンドにもとづき積極的に整備を展開することが必要な対象＝いわば柔軟性のある計画と、②保有する自然環境や歴史的資源など、今後も保存・維持し後世に引き継ぐべき対象及び継承すべき整備方針など＝いわば普遍的な骨格を明らかにすることが必要となっている。

そのため、30年から50年の長期的スパンで、社会の変化、多様な要求や課題に対応できる持続可能で普遍的要素を考慮したキャンパス計画の骨格・フレームについてキャンパスフレームワークプランを新たに策定し、キャンパスマスタープランを充実させるものとする。

#### 2) フレームワークプランの目的

フレームワークプランの主な目的は以下の2点である。

- ①持続的なキャンパスの整備を行う過程で基準となる普遍的な「枠組み」を定める。
- ②キャンパスマスタープランのうち、環境計画（＝物理的な施設整備計画）における基幹的要素を定める。

## (2) フレームワークプランの位置づけ

### 1) アカデミックプラン

理念、目的、目標等の大学における上位計画である。

### 2) 経営戦略

大学の理念に基づき活動する上で、重点投資など経営的視点で大学運営を方向づける指針である。

### 3) 現状把握

各種現況調査や学生・教職員等を対象としたアンケート調査を実施している。

### 4) キャンパスマスタープラン

大学の理念・目標に基づき長期的視点に立った計画的な施設整備を進めるためのものであり、教育研究施設を中心とした総合的な機能をもつ下記の主要5キャンパスについて策定している。計画期間は概ね10年である。

黒髪キャンパス/本荘キャンパス/大江キャンパス/京町キャンパス/城東町キャンパス

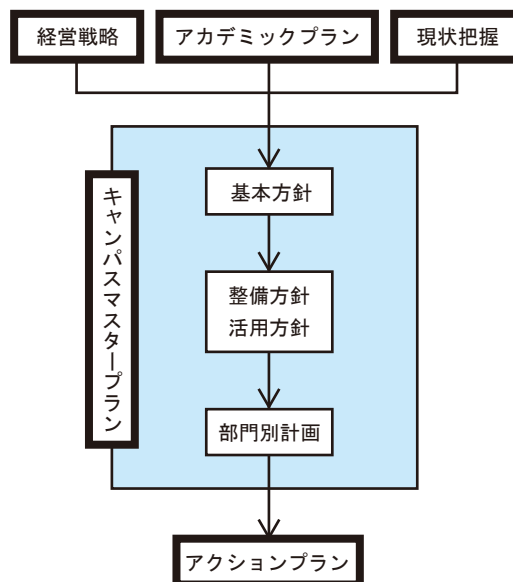


図. キャンパスマスタープランの位置づけ

### 5) フレームワークプランの位置づけ

フレームワークプランを、キャンパスマスタープランの一部と位置づける。柔軟性・中期的性質が求められるキャンパスマスタープランの中で、フレームワークプランは、継承性・長期的見地の役割を担い、統一性のある整備を継続するための骨格と位置づける。

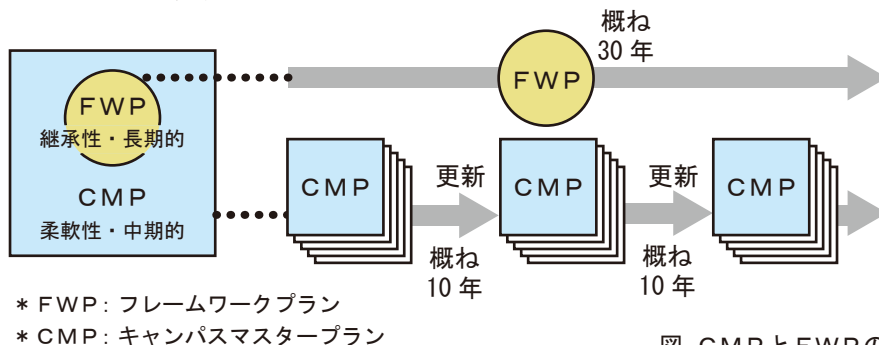


図. CMPとFWPの関係

### 6) アクションプラン

『第二期中期目標・中期計画』は平成22年度から6年間を計画期間としている。同時に、第二期中期目標・中期計画の内容を、今後の活動としてより具体的に、わかりやすく示した『熊本大学アクションプラン2010』を公表している。

### (3) フレームワークプランの内容

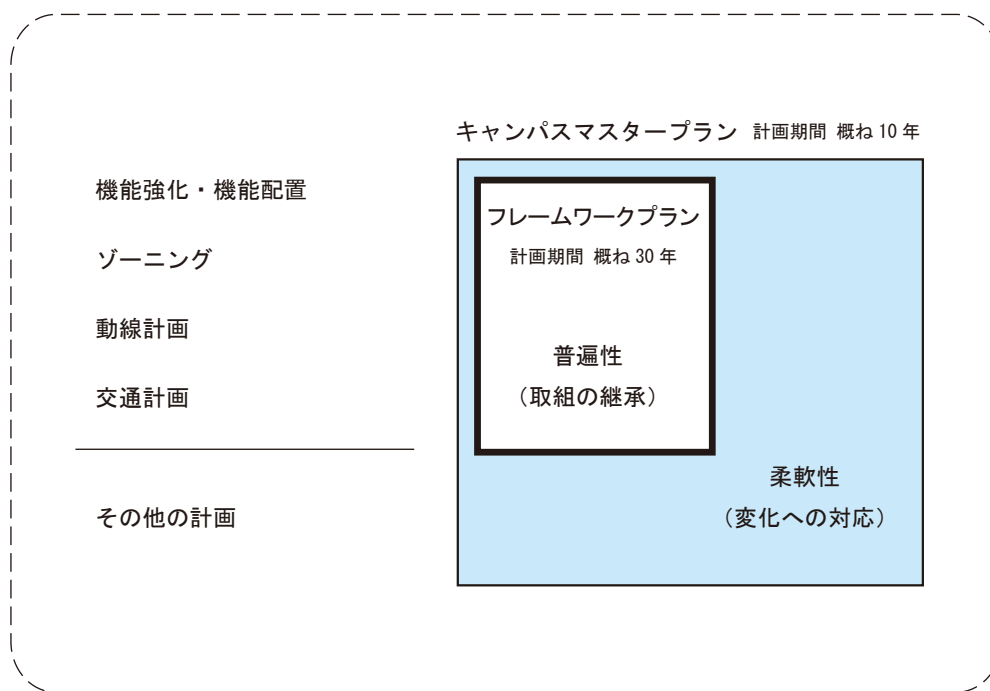
フレームワークプランは、キャンパスマスタープランに包括され、その中で取組を継承する普遍的な要素について記述する部分である。

フレームワークプランでは、全キャンパスに共通する基本方針と機能強化・機能配置、ゾーニング、動線計画、交通計画に関する普遍的な要素を定め、各キャンパス別のキャンパスマスタープランを更新する際に、変化への対応が可能な柔軟性を伴う計画を付加し計画を立案する。

アカデミックプラン



キャンパスマスタープラン



(アクションプラン)

図. フレームワークプランの内容のイメージ